

鯨

鯨とは、頭が龍あるいは虎、体が魚の形をした空想上の生き物です。口から水を吐くことから火避けの意味で屋根の上に載せられたようです。

宇土櫓の鯨

宇土櫓の青銅製鯨は昭和2年(1927年)の修理時に載せたものです。これは当時熊本城を管理していた陸軍に「熊本城の鯨」として保管されていたものですが、根拠が定かでない詳細な来歴は不明です。

この鯨は両者共に高さ96cm・幅35cm・長さ65cmですが、重量は約57kg(写真左)、約68kg(写真右)です。また、形態的な差は、「阿吽^{あうん}」の形をとる口元にみられます。

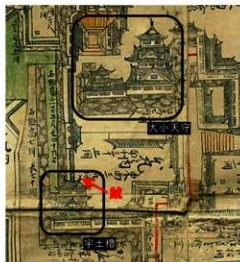


宇土櫓の鯨

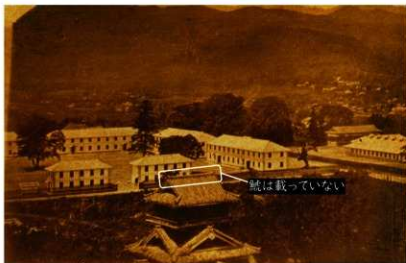
絵図・古写真にみる鯨

ひらやまじろひろこのくにくまもとしろまわります

正保年間(1644~1648年)に描かれたと推定される「平山城肥後国熊本城廻絵図」の宇土櫓には、鯨の表現があります。しかし、明治時代初期に撮影された古写真には鯨が載っていません。また、絵図によっては鯨が描かれていないものもあります。



「平山城肥後国熊本城廻絵図」(熊本県立図書館蔵)の一部を加工・編集



大天守から見た二の丸歩兵營(手前の櫓が宇土櫓[明治8年頃])
(公益財団法人 文化財建造物保存技術協会提供)

熊本城や他城郭との比較

熊本城天守には、瓦製の鯨が載っています。これは、現存している宝暦13年(1763年)製の鯨瓦を熊本地震後に複製したものです。また、天守の鯨には阿吽の表現がありません。

瓦製鯨や青銅製鯨のほか、全国には和歌山城の銅製鯨や名古屋城の金製鯨もあります。